

第12期事業報告

2015(平成27)年10月1日から2016(平成28)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

新理事長のもと展開したこの一年の間に、新たに JICA 草の根技術協力事業がスタートすることになり事業的には大きく拡大した一年となった。

「モンゴル障がい児療育支援事業」としては、これまで進めてきた中島医師を中心とする専門家チームは車いす支援チームとともに、4月～5月に5度目の訪問をして、初めて地方を訪問し地方の障害児の実態把握を試みた。車いす支援については、一年前に現地でお子さんを採寸し、それをもとに身体に合った車いすを探し、付属品を逃えて行き現地で手渡した。あわせて車いすのクッションを現地で製作するためのセミナーを開催した。今年度は53台の車いすを関係者とモンゴル航空の協力のもと3回に分けて空輸することができた。

現地の状況把握をもとに2回目となる保護者の会リーダー5名の招へいプログラムを実施し、障がい児の早期発見、早期療育の仕組みから就労までを実際に視察する9日間の研修を行った。今回は保護者の会の理事をはじめ国会議員、政府障害者福祉担当部局長を含め、トップリーダーが来日し、今後の障害児施策推進に役立つことを期待できるものとなった。

新たに、2016年9月1日から3年間にわたり、JICAの草の根技術協力事業「モンゴル障害児療育・教育支援および療育関係者育成事業」として、モンゴルへの療育技術移転、人材育成を草の根チーム5名が担当して継続的に実施することが決まった。第一回目の専門家派遣を実施し、現地でキックオフミーティングを行い、現地側の期待を集めて始動している。

タイについては、北タイの NGO ルデラ（ラフ農村開発）と協力し、北タイへのスタディツアー、高校生のスタディツアーコーディネートを継続実施した。

事業面では拡大したこの一年であるが、組織運営の面では逆に事務局機能が縮小したため、事業はかろうじて運営できたが運営基盤を確保することが課題となっている。

II. 事業の実施に関する事項

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者の範 囲及び人数	支出額 (千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) モンゴル障がい児療育支援事業						
ア. JICA 草の根 技術協力事業	「モンゴル障害児療育・教育支援および療育関係者育成事業」の第1回の専門家派遣を実施し、キックオフミーティング、療育・教育支援および関係先訪問を行った。	9月11日 ～ 9月25日	モンゴル国、ウ ランバートル 市	7人	障がい児医療従 事者：約10人 障がい児・者と家 族：約100人	157
イ. 療育専門家 の訪問	医師、理学療法士、保健師、車いす技術者等の参加協力により7名のチームで訪問。ホブド県を訪問し地方における障がい児の状況把握を行った。あわせて講義、車いすセミナー、車いすの調整を実施。	4月27日 ～ 5月6日	モンゴル国 ウランバートル 市内、ホブド 県、障がい児保 護者の会他	10人	障がい児医療従 事者：約10人 障がい児・者と家 族：約100人	997
ウ. 保護者の会 リーダー 招へい研修	保護者の会リーダー5名を招へいして障がい児療育に関する研修を実施した。	9月25日 ～ 10月3日	東京都板橋区、 練馬区、杉並 区、武蔵野市、 渋谷区	6人	障がい児保護者 の会役員3名 国会議員1名 障がい者施策担 当局長1名	847
エ. 車いす支援	車いす、バギー等を収集し、53台をモンゴルに運んで寄贈した。専門家訪問時に調整して手渡し、セミナーを実施した。	11月 ～ 5月	東京都板橋区、 上尾市、ウラン バートル市、ホ ブド市	9人	モンゴル国の 障がい児・者と家 族：約100人	604
オ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。	7月23日	東京都新宿区	20人	一般市民：140人	190
カ. 支援事業の 運営	モンゴル側窓口を依頼して、日本側事務局と連携して上記事業を実施、また現地協力者が自主保育の支援を実施した。	年間	モンゴル国ウ ランバートル 市、 東京都中央区	4人	障がい児・者と家 族：約100人	161

2. 海外の障がい児・者等との交流事業						
(1) モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施						
ア. モンゴル交流ツアー	車いす3台を運び、ウランバートルと南ゴビを訪問し、観光。保護者の会等を訪問。	8月7日～ 8月13日	モンゴル国ウランバートル市、南ゴビ	3人	モンゴルの障がい児及び家族	2,091
イ. 北タイ・焼畑の村スタディツアー	北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、村人と交流した。	2月11日～ 2月18日	タイ、チェンマイ、チェンライ、	2人	北タイラフ族等：約100人	747
ウ. タイへの高校生スタディツアー	東京・順天高校のタイ修学旅行の北タイ滞在期間について、ツアーの企画・コーディネートを行った。	7月23日～ 8月1日	タイ、チェンライ、パヤオ、チェンマイ	5人	日本の高校生、教員：23人 タイの現地交流相手：約500人	1774
3. 啓発事業						
(1) セミナー等の開催	実施せず					0
4. 文化交流事業						
	実施なし					0
5. 情報提供事業						
	HP、ブログ等の発行により情報を発信。	随時	法人事務所	1人	一般市民：不特定多数	0

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障がい者支援事業

ア. JICA 草の根技術協力事業

保護者の会のリーダーが中心となり立ち上がっている2箇所の療育・教育グループにおいて障害児療育・教育のモデルグループを作る。あわせて療育関係者の育成を行う。2016年9月1日から3年間の事業としてJICAと業務委託契約を締結

- ・草の根チーム：梅村浄(チームリーダー、小児科医)、
吉濱信恒(特別支援教育、理学療法士)
諸石真理子(理学療法士)
野口陽子(特別支援教育)
鈴木茂(経理)

・第1回専門家派遣

実施期間：2016年9月11日(日)～25日(日)

メンバー：梅村浄(チームリーダー、小児科医)、
諸石真理子(理学療法士)
野口陽子(特別支援教育)
鈴木茂(経理)

堤由貴子(作業療法士) 現地で合流

梅村涼(障害当事者) 現地で合流

実施内容：事業開始を告知するキックオフミーティング開催
2箇所の療育・教育グループにおいて評価と指導
関係機関への訪問

イ. 療育専門家の訪問

療育の各種専門家による訪問団がモンゴルを訪問し、保護者の会では、昨年実施した招へいプログラムの結果をヒアリングした。また、始まっている自主保育の現場を訪問、保護者の会のリーダーたちとの話し合いを行った。

車いすの支援については、昨年現地での採寸に基づいて収集し運んだ車いすに、誂えた付属品とともに障がい児に手渡すことができた。今回2回めの車いすセミナーを開き、体に合わせたクッションの作り方を指導した。

今回は、初めて地方の障がい児の実態を把握しようと、ホブド県を訪問し、逆にウランバートルの実情を認識することになった。

実施期間：2016年4月27日(水)～5月6日(金) 10日間

助 成：立正校成会一食平和基金

訪問団メンバー：7名

中島雅之輔（整形外科医・東京都北療育医療センター）
立川雪子（保健師・東京都練馬区石神井保健所）
植木外喜子（看護師・元東京都心身障害者福祉センター）
今清水勝人（車いす技術者・(株)ゼット本社）
春日 宏（車いす技術者・(株)ゼット本社）
中島久子（中島医師夫人・記録）
槇ひさ恵（事務局）

現地協力：チメゲーさん（現地調整・通訳）、
ポーギーさん、アンフバットさん（車いすチーム通訳）

主な内容：・保護者の会訪問、面談
・ホブド県訪問、視察（県知事、保護者の会ホブド県支部、保健局、家庭病院、子ども発達センター、障がい児が通う学校、在宅児の家庭2か所）
・診察相談 12名
・保健局で、中島医師の講演
・ウランバートルの自主保育現場訪問
 ナライハ（トヤさん）……航空機遅延のため中止
 ハンオール区（エルベグさん）
・ネックカラー、体幹保持のための手づくり方法の指導
・車いすセミナー（会場：モンゴル日本センター）クッションの作り方を中心に実施。36名参加。
・車いすの調整・配布、採寸

成 果：・昨年実施の招へい研修から帰国したメンバーのその後の活動報告を受け、招へい研修の成果を確認することができた。
・保護者の会のリーダーたちは、それぞれの可能な範囲で、地区の障がい児を集めて指導を行っているようであったが、何をすればいいのか見えない中、暗中模索していた。
・ホブド県を訪問。
 *保護者の会が県から場所を提供されて子ども発達センターを運営しており、行政と連携ができています。
 *家庭病院でも管轄地域の障がい児・者をよく把握できていることがわかった。高度医療は望めないが、落ち着いた環境で住民の健康状態が把握されている様子がわかった。
 *ホブド県だけしか見えていないが、人口が急増したウランバートルの医療の大変さが逆に見えてきた。
・保護者の会にお父さんクラブは動いていないことがわかった。車いすセミナーでは、今回車いすを受け取りに来た親を中心に車いすのクッションの材料、作り方などを解説した。
・1年前に採寸したお子さんたちに身体に合った車いすや必要

な付属品を渡すことができた。

課題：保護者の会のリーダーが自主保育や実態調査に向けて動き始めているが、それを継続した内容も充実したものにするための日常的な支援が必要である。

地方では、一般的な車いすであってもまだまだ入手が難しいのが現状である。

ウ. 保護者の会招聘研修

2回目の招聘研修を実施した。これまでの訪問、実態調査などで把握したニーズをもとに、障がいの早期発見、早期療育の仕組み、障がい児の保育、特別支援教育、就労、生活の現場などを視察する研修を実施した。

招聘期間：2016年9月25日(日)～10月3日(月)の8泊9日

助成：立正佼成会一食平和基金

後援：駐日モンゴル国大使館、(福)日本肢体不自由児協会

招聘人数：5人

- (1) オーガンツェツェグ (女性) 子ども発達センター・所長／小児神経科医
- (2) オユンバータル (男性) 理事／全国障害者団体連合会・会長
- (3) ミヤグマスレン (男性) 会員／APDC 法令委員会メンバー
- (4) サランチメグ (女性) モンゴル国会議員
- (5) トンガラグタミル (女性) 労働社会保障省人口開発局・局長

訪問先：練馬区北保健相談所(乳児4か月健診)

練馬区大泉保健相談所(経過観察健診/中島医師による)

武蔵野市地域療育相談室ハビット・こども発達支援室ウイズ

心身障害児総合医療療育センター、

練馬春日町幼児教室(障害児学童保育および幼児集団保育)

都立永福学園(特別支援学校)

あすなる作業所、

認定NPO法人ぱれっとの事業所視察及び創設者との話し合い

その他(東京北医療センター介護老人保健施設「さくらの杜」)

通訳：Sed Ayushav Bathishig(ヒシゲー)

成果：・障がいの早期発見、早期療育の仕組みから教育、就労までの現場を見ることができ、今後のモンゴルにおける仕組みづくりを考える機会となった。

・国会議員や政府の障がい児施策に最も責任ある立場の局長も含め、保護者の会の理事等影響力の大きいメンバーたちが来日したことで、今後に期待をもつことができる。

・今回、障がい者が地域社会であたりまえに生きている様子を見て、家に閉じこもっている障がい者の社会的な自立を進める

ことに大変大きな興味をもって帰国した。

課題：認定 NPO 法人ぱれっとの創設者である谷口奈保子氏と話し合いの時間をもつことができた。その場で即全員から谷口氏にぜひモンゴルに来てほしいと要請された。

エ. 車いす支援

あらかじめ採寸したお子さんの身体に合う車いす・バギーなどを国内で探し、クッション(外カバーはモンゴルで作る形)など付属品を誂えて届けた。今回、ベルトはモンゴルで保護者の会で製作した。3回で合計 50 台をモンゴルへ届けた。

専門家訪問時には、車いすの技術者 2 人が付属品を取り付け調整し、人へ手渡し、来年に向けての採寸者 15 人を含め合計約 50 人の障がい児に対しサービスを提供した。あわせて車いすセミナーを実施した。

これまで日本で付属品を誂えて持参してきたが、今後車いすの本体以外のベルト、クッション等付属品については、モンゴルで作れるようにすることをめざし、現地でセミナーを実施した。

これまでの JICA の「世界の笑顔のために」プログラムを利用した輸送方法が取れなくなり、自力で運搬をするため車いす募金を実施し約 30 万円の寄付をいただくことができた。しかし、コンテナを出すことはできず、関係者のご尽力により空輸していただくことができた。

また、保管場所を運送会社の倉庫に変更することになった。

専門家：今清水勝人、春日宏

助成：立正佼成会一食平和基金

協力：心身障害児総合医療療育センター、株式会社ゼット本社、株式会社 MIKI、株式会社エムジェイツアーズ、モンゴル航空東京エアポートマネジャー・アマラーさん、渡辺喜久夫さん、ポーギーさん(自立生活センター)

搬出日：2016 年 2 月 19 日 20 台 (輸送責任者：アマラーさん)、

3 月 4 日 20 台 (輸送責任者：渡辺喜久夫さん)

4 月 27 日 10 台 (輸送責任者：専門家訪問団)

8 月 7 日 3 台 (輸送責任者：モンゴル交流ツアー)

オ. 活動報告会

モンゴル支援事業の報告をチャリティコンサート『モンゴルの風』とあわせて実施した。ロビーにモンゴルでの活動写真を展示し、ステージからも現場の状況を報告し、ニンジンの活動への理解を広めた。

開催日時：2016 年 7 月 23 日(金) 19:00~21:00

会 場：ルーテル市ヶ谷センター（東京・新宿区）
出 演 者：イフタタラガ（ホーミー&馬頭琴&モンゴル琴）
…バトエルデネ、ドルギオン、ミヤガマスレン
ブルマー（舞踊）
報 告 者：中島雅之輔医師、 来場者：140人

カ. 支援事業の運営

以上の事業を、日本においては事務局を中心として行い、モンゴルでは、現地調整窓口として通訳のチメゲーさんに依頼して事業を実施した。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

ア. 『モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』

実施時期：2016年8月7日（日）～8月13日（日） 参加者：9人
内 容：車いす3台を持参、ウランバートル市内観光、南ゴビ観光
南ゴビのNGO シェアザジョイセンターのサマー療育キャンプを
訪問、保護者の会訪問

イ. 『北タイ焼畑の村スタディツアー』の実施

ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ（ラフ農村開発）では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みの進捗を見てあわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。

実施時期：2016年3月7日(月)～14日(月) 参加者：10人
内 容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、
村の生活体験、森復活の取り組み見学、養豚講座、
古着バザー開催、研修農場&子ども寮見学等

ウ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施期間：2016年7月24日(日)～8月3日(水)
受入人数：順天高校より、生徒20人及び引率教員3人
内 容：<チェンライ>山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場
での体験、子ども寮での交流、
<パヤオ>学校訪問、
<チェンマイ>HIV/AIDS 関連の活動、ストリートチルドレン
関連施設などの訪問、視察交流、象乗り
協 力 者：ダイエー・セイリ氏（チェンライ）、川口泰広氏（チェンマイ）

3. 啓発事業

実施なし

4. 文化交流事業

モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

HP : <http://www.ninjin-npo.org/>

ブログ URL : <http://blog.canpan.info/ninjin-jpn/>

情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。

(日本財団 CANPAN、日本 NPO センターNPO ひろば)

(2) Eメールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2016年9月30日現在)
個人正会員	35人(35口)
団体正会員	0
個人賛助会員	31人(37口)
団体賛助会員	1団体

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催

日 時 : 2015年11月7日(土)

会 場 : 中央区女性センター「ブーケ 21」研修室2

(東京都中央区湊 1-1-1)

イ. 理事会の開催

期 日 : 11月3日、12月12日、

ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志からなる運営委員により運営委員会を8回開催し、事業の詳細を協議し実施した。

(3) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

ア. 順天高校スポンサードウォーク

団体プレゼン : 4月6日 榎 受取寄付額 : 151,551円

イ. チャリティコンサート「モンゴルの風」